

団体名	NPO法人にじいろクレヨン		活動タイトル	あたたかく見守ってもらえる地域・石巻プロジェクト		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■ 活動風景		
● 望ましい社会状況（ビジョン）	当団体の実現したいビジョンは「子どもや子育てをあたたかく見守ってもらえる社会」（子どもや子育てに理解ある社会状況）の実現である。子どもの育ちや、子育ての責任を子どもや養育者の問題としてだけでなく、地域や社会全体の責任（社会課題）として捉え、子どもの育ちを見守る当事者意識を持った社会状況をめざす。			講座会場の様子	 <p>ファシリテーターと受講者が子どもの発達や考え方について理解を深めています ※「ポジティブ・ディシプリン講座」とは罰に代わる子育てへの取り組み方を提案する養育者支援のプログラムです。</p>	
● 団体の社会的役割（ミッション）	当団体の社会的役割（ミッション）は「東日本大震災の被災地を子どもたちとともに居場所づくりを通して心豊かなまちにします」の活動理念の下、子どもと子どもを取りまく人々が安心して過ごすことの出来る居場所づくり活動と子どもを見守るコミュニティ作り活動として以下の取組みを推進する。 1) 東日本大震災の被災児童支援の継続。 2) 子どもを見守るコミュニティ作り 3) 子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力					
● 団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成：子どもや養育者に寄り添い、多様な人々をコーディネートできる人材の育成。広報、事務局業務を担える人材の育成。 ● 物的資源：学校や行政とのネットワークを構築。地域企業や子ども支援団体、地域組織との連携。 ● 活動資金：自主財源（寄付・賛助会費・自主事業）を確保し、活動に見合った公的資金（補助金）の活用。 ● ナレッジ：団体活動において子どもの権利を理解し、子どもと養育者が守られるべき存在であることを周知できる。団体の事業運営においてスタッフ全体で意見発言でき、情報共有しながら進められる。 					
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		講座開催時、別室での託児の様子	 <p>お子さんは親御さんと離れてポジティブ・ディシプリンを理解したボランティアが見守ります。</p>	
<p>【ポジティブ・ディシプリン講座開催、周知】 感染予防の対応として参加人数を制限したが、当初の計画の通り、ポジティブ・ディシプリン公式プログラムを年間2回開催することができた。周知活動としてラジオや新聞などで広報を行った。</p> <p>【地域の居場所づくり】 地域での子育てに安心感が持てるよう、講座参加者の交流と相互保育の場として託児会場を開放し、つながりが継続できる取組を行った。</p> <p>【行政、他団体との連携基盤づくり】 石巻市虐待防止センターの共催で講座開催を行うことが出来た。支援者対象講座は行えなかったが、広報活動では子育て支援センターなどと連携体制ができた。</p> <p>【事業運営における人材の確保と育成】 認定講座ファシリテーターを新たに2名育成することが出来た。講座受講者から地域ボランティアを3名育成し託児進行マニュアルを作成できた。</p>	<p>【ポジティブ・ディシプリン講座開催、周知】 2クールで20名の講座参加者は体罰をなくした子育てへの理解が深まり、自身の子育てにおいて子どもの感じ方考え方の寄り添う行動変容があった。</p> <p>【地域の居場所づくり】 交流会を設定することはできなかったが、参加者やボランティア同士のつながりが途切れないよう託児会場を開放し交流を促進できた。また地域で子どもを見守る必要性を当事者として考える機会となり、子育てに対する安心感を持てるようになった。</p> <p>【行政、他団体との連携基盤づくり】 行政や他団体からプログラム開催の目的を理解し協力を得られ、今後主体的に関わる連携の足掛かりとなった。</p> <p>【事業運営における人材の確保と育成】 認定ファシリテーターの育成により継続した活動への基盤が出来た。また講座受講者から託児ボランティアとして10名の参加があり、当初の計画の通り、活動へ主体的に関わる人材育成を行うことができた。</p>					
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）		
<p>講座受講者全員、本プログラムを他の養育者に進めたいとアンケートで回答し、養育者にとって子どもの発達や考え方感じ方を理解することで、自己効力感が向上し、子どもの視点に寄り添い、罰を用いない子育ての実践への自信に繋がった。また、講座開催時の参加者の募集に苦戦したが、実際に講座を受講した人たちの口コミが効果的であった。</p> <p>託児会場を交流の場として開放したことによって参加者同士が子育ての不安について安心して話せることの大切さを感じ、支援の循環を生み出すきっかけを作ることができた。</p> <p>託児ボランティアの育成では託児進行マニュアルを作成し、事前の情報共有やコーディネート業務を丁寧に行うことで、地域で子どもを見守るコミュニティ作りの大切さを体感し、自身の力を発揮できていたとともに、継続したボランティア活動にもつながった。</p> <p>団体の成長につなげるための人材育成等の充実・強化の目標項目を追加し、ボランティアの受け入れ体制に関するマニュアル作成・展開した。</p>		<p>コロナ禍によって自粛や中止が続き、子どもも大人も不安や負担が大きくなり、親子が互いにストレスを抱えている中で「子どもや子育てをあたたかく見守ってもらえる社会」（子どもや子育てに理解ある社会状況）の実現に向けて、罰を用いない子育てについての養育者対象講座を団体主催として初めて開催できた。本事業では、活動継続の足がかりとなる人材育成に力を入れて取り組んだが、地域の中に子どもを見守るコミュニティを根付かせていくためには、より多くの協力者を巻き込み、当事者である地域の声を取り入れられる仕組みづくりが課題であると考えている。</p> <p>また、子どもに対して厳しく指導することが正しいしつけの手段と捉えている養育者や社会的な認識から、体罰を用いずに子どもの育ちをサポートすることの大切さに気づける機会を行政と協働し推進する必要があると考えている。次年度は課題解決に向けて、これまでの講座受講者との継続した関係性を持ち続け、受講者の意識・行動変容の調査及び、地域で子どもを見守る人材の育成強化、団体でのボランティア受け入れ体制の整備強化を行う。</p>		この1年間の活動を通じて	講座受講者は罰を用いない子育てへの行動変容がみられた。また新たな活動協力者として認定ファシリテーター2名、地域ボランティア3名の人材育成	を達成しました。
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）						
アンケート回答記述より 「色々な考え方を持つ親がいて子育てに正解はないと思えた」「子どもに対する接し方や言葉かけが変わった」「子どものためと参加したが何よりも自分のためになった」「仲間が増え、認められる大切さを実感できた」						